

合同

No. 497

「子供のように神の国を受け入れる」

日本キリスト合同教会教師

工藤 利雄



「はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」(ルカによる福音書18章17節)。

イエスさまは、もしわたしたちが神の国に入りたいと願うなら、子どものようにならなければならないと教えています。イエスさまがわたしたちの視線を子どもに向けさせるのは、「子ども」という存在の中に、神の国を理解し、信じ、受け入れる上で大切なことがあるからです。

神の国とは、神の支配を意味します。神が恵みをもってわたしたちを治めてくださるということです。神の支配が確立することを、「神の国が来る」と聖書は語ります。この神の国、すなわち神の恵みの支配、救いはイエスさまが来られたことによって始まりました。とりわけ十字架の死と復活によって、神の国はすでにわたしたちの間に実現しています。イエス・キリストを信じ従う者は、すでに神の国、神の恵みにあずかっているのです。

とはいえ、神の国はまだ完成していません。それが完成するのは、イエス・キリストが再び来られ、神の支配が完成する世の終わりの日です。わたしたちの信仰の歩みは、すでに実現している神の国を信じ、その信仰に支えられながら、現実の世界で完成を待ち望んで生きることです。つまり、神の国に入ることを願い求めつつ、忍耐と希望をもって歩いていくことです。

ここで、イエスさまが子どもたちを呼び集められて、祝福を与えようとしておられるのはなぜでしょうか。その理由は「神の国はこのような者たちのものである」(ルカによる福音書18章16

節)という御言葉にあります。「このような者たち」とは、乳飲み子を含む子どもたちのことです。イエスさまは、子どものような者こそ神の国にふさわしいと言われました。

では、なぜ子どもは神の国に入るのにふさわしいのでしょうか。子どもは、親がいなければ自分一人では生きていけません。生きていくために親を全面的に信頼し、すべてを委ねています。だからこそ、親から与えられたものを「ありがとう」と言って喜んで受け取ります。そこには親と子どもとの間に強い信頼と愛があります。乳飲み子であれば、なおさら与えられたものを母親から受け取ることしかできません。母親の愛情に全面的に依存し、与えられるものを疑うことなく受け取ります。これは、まさに神の恵みを受け取ることを、母親と幼子との関係に例えています。この子どもの姿は、神の国を受け入れることに対して、自己主張せずに、神の恵みを受け取る者として見られているのです。

神の国を受け入れるということは、イエスさまによってすでに実現している神の恵みの支配、すなわち救いの御業を信じて受け入れることです。言い換えるなら、イエス・キリストの十字架と復活によって成し遂げられた神の救いの御業、恵みの支配を告げる福音を信じて受け入れることです。ルカによる福音書18章17節にある「子供のように」という表現は、この「神の国を受け入れる」姿を意味しています。ですからイエスさまが言う「子どものような者」とは、「子どものように神の国を受け入れる者」のことです。「神の国を受け入れる者」こそが神の国の恵みにあずかり、救いの完成を待ち望みながら信仰の道を歩み続けることができるのです。そして終わりの日に、神の国に迎え入れていただけるのです。

「子供のように神の国を受け入れる」ことに、救いへと至る信仰の歩みの第一歩があります。それだけではなく、信仰生活を終わりまで歩み抜くための大切な秘訣が、この御言葉の中にあるのです。